

「高校生による海外エネルギー事情研修会」を通して

八戸東高等学校 蒔苗 千佳

この「高校生海外エネルギー事情研修会」に応募してからフランス、スウェーデンに行くまでは本当にあっという間でした。

私は今まで一步踏み出す勇気がなかなかなくて、海外に行くチャンスがあってもそのチャンスを無駄にしていました。でも、今回今までの自分を変えたいという思いと原子力などのエネルギー問題への強い興味から応募することを決めました。今回の研修ではそういう自分を変えることができたのではないかと思います。また、前よりもいろんなことにチャレンジしようという自信がつかしました。

2週間の中で学んだことは数多くあります。

まず、私は「これからも原発を使い続けるか」という質問には“賛成”とか“反対”という風にはっきりと答えることができないと思っています。今の日本の現状を考えると原発なしでは日本の経済や工業も衰えてしまいます。それぐらい“原子力”というものは私たちの生活を電力で支えているだけでなく、社会も支えています。今回、フランス、スウェーデンへ行って思ったことは、私たち日本人は原子力発電を使用して生活している上で、一人一人が原子力のことをもっと勉強して知っておくべきだと思いました。両国では、教育の中で原子力やエネルギー問題について詳しく触れられていました。しかし、日本では学校の教育の中ではそういう風に詳しく学べる機会は少ないです。それが、日本人の原子力に関する知識不足の原因につながっていると思います。

スウェーデンの原子力発電所に行った時にそこで案内してくれた人が「どんな発電方法にも欠点がある。それは当たり前で完璧な発電などない」と言っていました。それは原発でも同じことが言えると思います。また、これはスウェーデンの生徒もディスカッションの時に同じようなことを言っていました。日本人は原発に完璧を求めすぎているのではないかと感じます。スウェーデンの人々は政府とかメディアが言ったことを鵜呑みにしないで、自分たちで調べたりするなどして正しい知識をもっていました。また、原発の欠点をしっかり理解しながら原発を使っていたということが日本人とは違うところだと思いました。

また、現地の高校生とのディスカッションでは新しい意見や面白い意見があり違った目線からもエネルギー問題を考えることができました。私は原子力発電に依存するのではなく、やっぱり原発への依存度を下げてほしいと思っています。

ます。しかし、原発を今すぐになくすことはできないので原発への依存度を徐々にさげていきながらと再生可能エネルギーの普及を進めたり、安定した電力が得られるように開発をしたりするなどして将来的には原子力をベースとして再生可能エネルギーも使っていくことができたらいと思います。

エネルギー面以外で学んだことは、自分から積極的に行動を起こすことの大切さと自分の意見をしっかり持つことです。あっちの高校生は自分の意見をしっかりもって発表していました。日本人はなかなかそういうことができないので見習いたいと思いました。交流会の時に私は書道が得意なので書道を紹介しました。あまり知られていなかったようで多くの人が興味を持って一緒に漢字を書いたりして楽しみながら日本の文化を紹介することができました。交流会は特に心に残っていて自分と同じ高校生と話しをしたり、ディスカッションをしたことで、たくさん得るものがありました。

日本語が通じない両国に行って感じたことは、英語の重要性でした。もっと英語が分かればと思った時やもどかしさを感じた時があり、英語に対する意識が変わりました。また語学は特技とかではなく、海外の人とコミュニケーションができる“ツール”であると改めて思いました。

この研修に参加して 自分の視野が広がり何事にもチャレンジする自信ができました。一步踏み出すことができて本当に良かったと思うし、背中を押してくれた祖母や家族に感謝しています。また、自分が8人の中の1人として様々な貴重な体験をできたことに本当に感謝しています。一緒に楽しんで、協力しあった仲間に私はとても助けられました。この研修で学んだことはこれからの生活や将来に大いに役立つはずです。

私は一度体調を崩して現地の方や仲間や多くの方に心配と迷惑をおかけしてしまいました。その時にお世話になった現地の方や通訳さんに感謝の気持ちを伝えることができなかったのが今は心残りです。この場を借りて感謝の気持ちを申しあげます。

この研修に携わっている青森商工会議所の方々を始め東北エネルギー懇談会の皆さん、また、いろいろとアドバイスを下さった学校の先生方、そしてたくさんお世話になった随行者の方々、現地でお世話になった多くの人に感謝しています。この研修に参加することができて本当に良かったです。本当にありがとうございました。